



一 雲の舟を揚ぐる椿の船 三まゝ
 月を待つ月の鹿をか山五来
 雲柳を植むか江や雨雲は武陵
 二人とて春めかたは猿道し 月化
 雛子啼やおろろあたる山はく玉屑



阿事トキ秘入柿入直部望 士川
 尊と世をぬきをえとく色 春蟻
 春雲 春田

月の影ふかきし 柳の毒 春渚
 けききを障風し 小雨な 春亭
 花草も花のうらも 田いり色 春田鶴
 朝も花のぬいとも花の中 春雄
 花もやばらもまゝなる公様 春樹
 樹から 都を毒の雨深 春鶯
 花起すまの巾もくき色 春来

花の煙も花の柳も似たか 春人
 花の氷の上を流る花の根も 春屋

